

心豊かでたくましく 共に生きる子ども



ひらかた

11月号

令和7年10月31日
上尾市立平方小学校
校長 大野 和孝



ホームページ [上尾市 平方小学校](#) [検索](#) [QRコード](#)

～様々な交流の場面から～

校長 大野 和孝

いつまで夏が続くのだろうと思っていた頃が遠ざかり、朝晩はめっきり冷え込み、肌寒さも感じる季節となりました。明日から11月、「霜月」となります。

令和7年度も折り返し地点を過ぎました。2年生は生活科において、1年生に楽しんでもらう「おもちゃランド」を行いました。2年生は、楽しんでいた側から楽しませる側となることで、成長を自覚し、さらに学びを深められたことでしょう。10月2日には、日頃お世話になっている下校ボランティアの方等を各クラスにお招きし、児童と一緒に給食を召し上がっていただきました。地域の方をクラスに案内した児童は、緊張していましたが、別れる時には笑顔でハイタッチしている様子が印象的でした。また、地域の方が誕生日であることを知った児童は、その場で誕生日カードを作成しプレゼントしていました。とても微笑ましいひと時でした。これからも地域の方とのふれ合いを通して、感謝の気持ち、地域の一員としての自覚を育んでいきたいと思います。

さて、各学級においては、「話している人を見て聴く」という指導を繰り返し行っています。「目は口ほどにものを言う」や「目は心の窓」などと言われるように、言葉だけでなく、その裏側にある思いなども伝え合うことができます。例えば、友達から「ごめんね」と言われたとします。その際、謝った友達が目をそらし、ふてくされたような表情だったら、悪いと思って謝っていると感じるでしょうか。このことについては、アメリカのアルバート・メラビアンという心理学者が実験から明らかにしたものが有名です。メラビアンの実験によれば、「言葉そのものだけでは7%しか思いが伝わらず、話すスピードなどの話し方で38%、表情や態度で55%」だそうです。思いを伝えることは、言葉だけでなく、話し方、態度や表情がきちんと備わってこそしっかりと伝わるということです。目を見て話すこと、目を見て聴くことはコミュニケーションを取る上でとても大切です。

私自身、メールやSNSなどでのやりとりに不安を感じる場合があります。相手の目を見ることもなく、表情も分かりません。頼りになるのは文字だけです。誤解が生まれることもあります。伝えたい思いとは全く違った思いが伝わってしまった経験もあります。メール等によるコミュニケーションの場面では、言葉一つ一つに十分に留意する必要を感じています。子供たちは、タブレットやスマートフォンなど、様々な端末機器と共に生きています。簡単に情報のやり取りができる反面、「言葉のもつ力」を知っていなければ、不用意に人を傷つけてしまったり、傷つけられてしまったりする危険があります。

時代は変わっても、やはりコミュニケーションは、人と人とが直接関わり合いながらやり取りすることで深まるものであり、そのよさや楽しさを知った上で、様々なツールを適切に使用できるようにしていくことが肝要だと考えています。2年生が「おもちゃランド」で、1年生に遊び方を教えている様子や、時間の経過とともに交流が深まっていく地域の方との給食会を拝見し、改めて強く感じました。